

寸言

三菱航空機株式会社
取締役社長
森本 浩通



MRJ初飛行を終えて

三菱航空機株式会社社長の森本浩通です。

昨年4月に三菱航空機の社長に就任し、MRJ (Mitsubishi Regional Jet) 事業の旗振りを行って参りました。昨年11月11日には、これまでの努力が実り、MRJの初飛行を皆様にご覧頂くことができました。関係者の皆様にこの場を借りて、御礼申し上げます。

今回初飛行を実施しましたMRJ試作1号機は、一昨年10月にロールアウト式典でお披露目を行った機体です。ロールアウト式典後から、各種システムの作動、特性を確認し、並行して各種装備品の試験実施及び航空局の書類審査受審を行って参りました。昨年6月からは滑走路での走行試験を開始し、走行速度を徐々に上げ、最後の走行試験では、離陸寸前の速度で、機首を5度だけあげる試験を行いました。安全を最優先させ、ゆっくりですが、着実に前進させて参りました。初飛行を終えて、機長の安村が「機体が飛びたいと言っているような感じ」というのは、まさに我々社員全員の気持ちでした。

初飛行の当日は、早朝4時から準備を始め、暗闇の中、MRJを名古屋空港15番スポットに移動させました。最終天候判断を行うために試験飛行空域に到着したJAXA「飛翔」からの情報を確認し、パイロットと技術者、その他関係者のブリーフィングを行い、それぞれが持ち場について初飛行の最終準備を開始しました。その後、試験支援を行う三菱重工の社有機が名古屋空港を離陸し、機体コンフィ

ギュレーションを確認するために岐阜基地を離陸したT-4練習機とともに滑走路南側から侵入。その2機とタイミングを合わせて、MRJが滑走路を走り始め、9時35分に離陸しました。離陸後は空港東側から南に向かい太平洋上で試験を行い、約一時間半の飛行試験を終え、11時02分に無事着陸しました。

テレビ、新聞、雑誌など多くのメディアでMRJ初飛行の成功を好意的に取り上げて頂きました。

初飛行では、MRJの良好な特性が確認でき、これまでのところ、機体性能を主体とする技術データも概ね設計通りであることが確認されています。また、エプロンでご覧頂いた関係者や空港周辺でご覧頂いた皆様から、他の機体に比べ、高い静粛性を持っているとの感想を頂いており、期待通りの完成度の高い機体に仕上がっていることを実感し、販売にも拍車がかかるとの確信を持ちました。

本年は、本格的な飛行試験フェーズに入ります。国内の飛行試験だけではなく、米国での各種試験を行うため、シアトルエンジニアリングセンターも本格稼働致します。また、カスタマーサポート体制も充実させていかねばならず、まだまだ課題が山積しています。

MRJを事業として成功させ、航空機産業を日本に根付かせるために、今後とも全社一丸となって邁進して参りますので、引き続き皆様のご支援・ご声援の程、よろしくお願い致します。